

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 030	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 肥育牛房における敷料のリサイクル	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 肥育経営では、肥育牛の安楽性を保って良好な発育を促すために、多量の敷料を使用する。代表的な敷料の材料としてはオガクズがあげられるが、近年は供給量が減少し価格が高騰しているために良質なオガクズがなかなか手頃な価格で購入できない。 そこで、肥育牛房における敷料の交換サイクルを少しでも延ばすため、代替敷料(シュレッターダスト利用等)とは別に、敷料(オガクズ)のリサイクル手法について研究・提案していただきたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>おが屑が入手困難な状況は、全国的な状況で今後ますます入手が困難になることが想定されます。おが屑は、肥育牛や搾乳牛の敷料として用いられる他、堆肥化の初期調整資材としても利用されています。これまでおが屑の代替敷料の検討をしてきましたが、安定的かつ安価に入手できる資材としては製品堆肥を用いる戻し堆肥が有効です。しかし、戻し堆肥を敷料として利用するには、低水分化する必要があります。安価な方法としてハウスでの乾燥が行われてきましたが、天候や季節に左右されるため、安定的に敷料を供給するには課題が多いのが欠点です。</p> <p>現在当所では、密閉縦型発酵装置排気を熱交換器に通してお湯を作り、畜舎の暖房等に利用する技術開発に取り組んでおります。熱交換器による熱回収では、電気及びガス等を利用すること無く、温水及び温風が回収できます。家畜ふん堆肥化過程で発生した熱を製品堆肥の乾燥に利用できるかも含め、熱回収・利用の検討を進めてまいります。</p>		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			